

目指せ グローバルな法曹人

琉球大学法科大学院 座談会

琉球大学の法科大学院(LS)は、法曹人に必要な学識および能力を培うことを目的とする専門職の大学院。「地域にこだわりつつ、世界を見つめる法曹人の育成を目指す同大学院は2004年に発足し、今年で8年目を迎える。これまで輩出した卒業生たちは法曹界をはじめ民間、行政などあらゆる分野で活躍している。去る3月、沖繩タイムス社で、本年度の新入生や卒業生3人による座談会を開き、教育システムや存在意義などについて聞いた。



司会・宮尾徹弁護士 (琉大LS専任教員)



川満 健太郎さん

県庁職員(新1年次)

1979年8月29日生まれ、開邦高校卒、2009年から沖繩県総務部職員厚生課勤務。今年4月に新設された琉大LS2年コースに初めて合格した。

琉球大学の法科大学院(LS)を受験した理由やきっかけは何か。

満名 生まれ育った沖繩に関心があったので、京都の大学を卒業した年に受験した。私がLSを受けた2004年には、沖國大に米軍ヘリが墜落する事故があり、しっかりと法律を学び沖繩問題を解決したいという気持ちになった。琉大LSには、米軍基地法や地域に根差した授業があり、講師陣の中に県内で活躍する弁護士が多数いるという点でも興味があった。



吉村 満名 川満

LSの受験対策や授業などで印象に残ったことはあるか。

吉村 満名 川満

川満 沖繩県の条例制定など県のルールづくりに携わる仕事をしたことで、LSを受験した。高校時代から基礎問題に関心があり、大学で法律をしっかりと勉強しようとして法学部に進んだ。大学時代は法曹界を目指したこともあったが、行政の道を選んだ。しかし、LSであらためて法律を勉強し直し、卒業後も県庁に戻って「行政庁内弁護士を目指したい。京都の条例を例に挙げると、コンビニの外観を周辺環境に合わせつつらせるなど、歴史や文化にかかわるまちの風景をとて大切にしている。私も沖繩らしい環境や風景、文化を

残すための条例づくりに関わりたい。

川満 LSのプロゲラムでハワイ大学の海外研修を受けたことが印象に残っている。ハワイも沖繩と同じような島国で、どう風にお互いが島として発信しているのか、とても勉強になった。2008年に裁判所への就職が決まった。実際、裁判所に入ってから、LSの3年間の勉強がすぐ役に立った。法律用語はとても難しいが、琉大LSで深い勉強をしたために、当事者と接する際、内容をかみ砕いて分かりやすく説明することができるようになった。

川満 私の場合、県の自己啓発休業の制度を使って2年間、休職して学ぶ。受験対策は、大学時代に旧司法試験を受けた経験もあって、その仕事を終えた後、琉大図書館などを利用して毎日約4時間勉強した。

川満 LSは基本的に法曹教育を目的としているが、琉大LSでは、もう少し幅広い意味で、沖繩の発展に役立つ「法務人材」の育成という役割も果たしていきたいと考えている。琉大LSに期待するものはあるか。

川満 個人的には、LSと沖繩県との連携を深めてほしい。行政は法律の執行という役割を担っているが、LSで法律を専門的に学んだ県職員が増えることで、よの法律の趣旨を踏まえた業務を行えるようになる。また、行政に詳しい法曹関係者が増えることで、県の業務を適切にチェックすることが可能になる。そのため、利用しやすい休業制度、働きながらLSに通える制度や、LSと県相互間の研修制度等、両者が環境整備をしていくことが必要だと考えている。

論理的思考能力身につく 弁護士講師の授業が魅力 行政庁内弁護士を目指す

官民に増やせ法律のプロ 社会で役立つLSの勉強 条例づくりに関わりたい



吉村 正夫さん

弁護士(4期生)

1958年7月5日生まれ、77年ハワイ州市立の高校卒業、83年3月早稲田大卒、2007年琉大LS入学し、10年に卒業、同年9月司法試験合格。12年より弁護士開業。



満名 史絵さん

裁判所事務官(2期生)

1981年生まれ、昭和薬科大学附属高校卒、2004年に立命館大学卒、05年琉大LSに入学し、08年3月卒業。同年10月から那覇地方裁判所勤務。

渡名喜 庸安 琉球大学大学院法務研究科長

法曹養成のための高等専門職大学院として2004年に発足した琉大LSは、沖繩弁護士会のさまざまな学修支援や沖繩銀行の経済的支援など地域社会にも支えられつつ、この5年間に26人(昨年7人)の司法試験

資格者を出してきた。そのうち9人は法学部以外の卒業生の法学未修者である。この実績は本土の同規

琉大LSは、沖繩の人々の法曹教育を受ける機会を保障し、安定したリーガル・サービスを提供していくために、授業改善に努めながら、修了後のアフターケ

私たちは、有職者など標準修業年限では修了困難な皆さんのために3年分の学費で最長6年まで計画的に履修できる長期履修制度も採り入れ、また他大学からの転入学や学部3年次終了後の入学を認める飛び級制度の積極的活用にも途を開いている。地域特性と国際性を備えたグローバルな法曹の道を目指している県内外の皆さんが、琉大LSに積極的にチャレンジすることを私たちは大いに期待してやまない。

優れた教授陣が専門教育

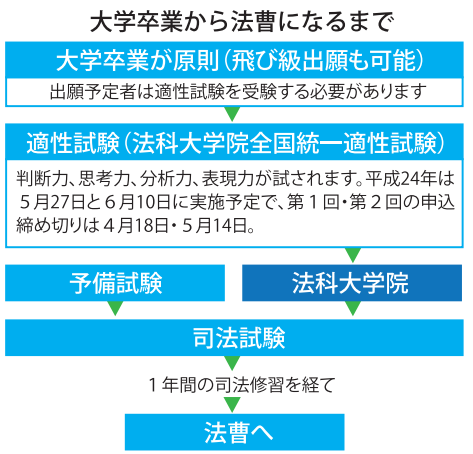


模国立大学に勝るとも劣らないものである。また、大都市圏では新人弁護士の就職難が報じられているが、本学の場合は全員がすぐに就職先が確保できている。

機関を含む県内外の民間企業の法務担当スタッフとして、法曹養成のための高等専門教育を受けてきたその利点を活かしつつ大いに活躍するようになってきた。

了にも取り組んできた。徹底した少人数教育の下で、厳しくも親身になって手解きを惜しまない優れた教授陣を多く擁していること、本学の特徴である。

私たちが、有職者など標準修業年限では修了困難な皆さんのために3年分の学費で最長6年まで計画的に履修できる長期履修制度も採り入れ、また他大学からの転入学や学部3年次終了後の入学を認める飛び級制度の積極的活用にも途を開いている。地域特性と国際性を備えたグローバルな法曹の道を目指している県内外の皆さんが、琉大LSに積極的にチャレンジすることを私たちは大いに期待してやまない。



最新の情報は、琉大LSのウェブサイトです